

邸園の概要

所在地 茅ヶ崎市中海岸 3-8-5
建設年 浴室棟 明治 32 年 (1899)
広間棟・中二階棟・長屋棟
大正 15 年 (1928)
構造 木造／平屋建一部 2 階建／鉄板葺・スレート葺及び瓦葺
設計 松本常吉
その他 国登録有形文化財 (平成 21 年 1 月 8 日)



明治ゆかりの邸園

茅ヶ崎館は、明治 32 年創業の旅館であり、一部に創業時に建設された建物が現存します。

邸園の概略

茅ヶ崎館は、日本郵船の御用船機関長をしていた森信次郎によって、明治 32 年 (1899) 6 月に創業した旅館施設です。

建物は、明治 32 年 (1899) に建設されましたが、大正 12 年 (1923) 9 月 1 日の関東大震災で浴室棟を残し全てが倒壊、その後、大正 14 年 (1925) に再建されました。創業時の建物で現存する浴室棟と、再建時の建物で現存する広間棟・中二階棟・長屋棟の 4 棟が国登録有形文化財に登録されています。建物の配置は、北側に玄関と車寄せを設け、南庭に面してコの字型に建物が中庭を囲んだ配置をとります。西端に開放的な広間は、簡素で軽快な意匠のトコや付書院を構えます。

茅ヶ崎では、茅ヶ崎館と同年に東洋一の結核療養施設とうわれた旧南湖院が開院し (現存する「旧南湖院第一病棟」は平成 30 年 3 月 27 日に国登録有形文化財に登録)、近隣には海水浴客・お見舞い客をみこして数件の宿泊施設が開業しました。茅ヶ崎に唯一現存し、営業しているのは茅ヶ崎館のみです。

また、茅ヶ崎館では、明治 35 年 (1902) に茅ヶ崎に移り住んだ川上音二郎と貞奴の「オセロ」の本読み稽古が行われ、明治 41 年 (1908) に南湖院で国木田独歩が亡くなった際には、故人を偲んで文人が当館に集まりお清めの宴会の会場として使用されました。

昭和 12 年 (1937) には、映画監督・小津安二郎の仕事部屋として使用され、数々の名作の脚本が執筆されました。

現在も予約制の宿泊、食事のみの利用ができます。